

ゴメリ医科大学へインターネットで遠隔講義



遠隔講義の様子



講義する塚崎助教授（左）

医歯薬学総合研究科は、昭和61年4月26日に起きたチェルノブイリ原子力発電所の事故から20年を迎えるにあたって、ベラルーシ共和国のゴメリ医科大学との間でインターネット回線を利用した遠隔講義を4月21日（金）、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館で行いました。

同研究科は平成3年からチェルノブイリ周辺住民の健康影響調査や医療支援、共同研究を行ってきましたが、同時に被曝者医療に携わる医師や医学生の教育支援にも力を入れてきました。平成14年度からは21世紀COEプログラム「放射線医療科学国際コンソーシアム」を開始していますが、その柱の1つとして「放射線医療科学 e-Learning プログラム」を推進してきました。今回の遠隔講義はこの e-Learning プログラムの一環として行ったものです。

まず、附属原爆後障害医療研究施設の塚崎邦弘助教授が「白血病治療の最新知見」のテーマで、骨髄移植や抗がん剤治療に比べ副作用が少ないとされる新薬などについて、ゴメリ医科大学の教員や学生に講義を行いました。ゴメリ医科大学長との質疑応答が行われた後、現在WHO（世界保健機関）に出向中の附属原爆後障害医療研究施設の山下俊一教授により、ゴメリ医科大学で放射線被曝による甲状腺がんの発生メカニズムについての講義があり、長崎にもリアルタイムで中継されました。

（医歯薬学総合研究科学術協力課）



遠隔講義の様子



講義する塚崎助教授（左）